

質 疑 応 答 書

令和7年 7月 29日

北海道国立大学機構北見工業大学管理課施設管理室

確 認 印			
室 長	室長補佐	係 長	係
			

工事名称 北見工業大学総合研究棟（応用化学系）改修工事

[質疑応答] ・ 図面および仕様書に対する質疑事項は下記のとおり。

番号	図面番号	質 疑 事 項	応 答
1	特-A07	石綿含有建材の除去工法に関して「粉碎して除去」、「てばらし」の二つの記載がありますが具体的指示のしるしがありません。 煙突を撤去する際はどちらで対応すればよろしいかご教授お願い致します。	除去工法は「てばらし」を見込んでいます。 ただし、監督職員と協議の上、除去方法を決定できるものとします。
2	特A-07	改修特記仕様書-7 9. 環境配慮改修工事において ・石綿含有成形板（石綿含有けい酸カルシウム板第一種以外）の除去に○印があり、部位については「図示による」とありますが、その部位を具体的に図面にてご指示願います。	石綿含有成形板（石綿含有けい酸カルシウム板第一種含む）の使用箇所、除去はありません。 ○印の摘要を除外として訂正します。
3	特A-07	改修特記仕様書-7 9. 環境配慮改修工事において ・石綿含有仕上塗材又は石綿含有成形板（下地調整材）の除去に○印がありますが、記述された項目が仕上げ表と一致する標記がありません。その部位を具体的に図面にてご指示願います。 また、その下部の「石綿含有建材撤去後の仕上げ工事」「図示による」とありますが、その部位を具体的に図面にてご指示願います。	石綿含有仕上塗材については「内装薄塗材（下地調整材にアスベスト含有）」のことを示しています。 石綿含有成形板については使用箇所、除去はありません。 また、その下部の「石綿含有建材撤去後の仕上げ工事」「図示による」については石綿含有成形板の除去がないため○印の摘要を除外として訂正します。

以下継続 ☒ あり ☐ なし]
[質疑応答継続用紙 1 / 4]

工事名称 北見工業大学総合研究棟（応用化学系）改修工事

番号	図面番号	質 疑 事 項	応 答
4	特A-01	改修特記仕様書-1 1各章共通事項 石綿含有建材の調査について、事前調査「工事着手に先立ち、あらかじめ関係法令に基づき、石綿含有建材の事前調査を行う。貸与資料（9号館 アスベスト定性分析調査表）」とありますが、その調査項目、方法、部位及び範囲を図面にてご指示ください。	石綿含有建材の事前調査については本学で行っているため、貸与資料（9号館 アスベスト定性分析調査表）の確認により、事前調査したものと見なします。 それ以外にアスベスト調査が必要な箇所が判明した場合は、監督職員との協議による。
5	A-02 A-03 数量表 No. 28 No. 49	仕上表-2/内部仕上表（既存）の壁仕上げ「■内装薄塗材」の範囲について、仕上表では壁全てとなっておりますが、数量表には一部の面積として記載されております。他の詳細図には記載がないことから、その範囲を図面にてご指示願います。 また、B階段棟については、壁及び天井仕上げ全て「■内装薄塗材」となっておりますが、数量表には記載ありませんでした。仕上表を「正」とする場合、同じく範囲を図面にて指示願います。	質疑事項に「数量表には一部の面積として記載」とありますが、環境配慮改修 壁内装薄塗材撤去数量の面積でしょうか。 （参考数量書 No. 28 9号館 環境配慮改修 内装薄塗材55.8㎡） （参考数量書 No. 49 C階段 環境配慮改修 内装薄塗材15.6㎡） 壁内装薄塗材撤去以外の内装薄塗材については、トップコート（下地調整R C種共）になります。 B階段については、盤撤去跡の床・壁補修（1～4階）のみのため今回の改修範囲に内装薄塗材撤去の項目はありません。 また、9号館1・2階の廊下壁 内装薄塗材についてはアスベストは含有されておられません（仕上表-1 A-02）それ以外の内装薄塗材については下地調整材にアスベストが含有しています。
6	A-11 A-35～37	2～4階実験室内の天井高さ2,900の範囲におけるY2、Y3通りの梁型について、矩計図（改修後）の2階部分に見付高さが130と寸法表記されておりますが、各天井伏図（改修後）には梁下高さがCH 2,720と表記されていることから見付高さは180になります。どちらの数値を採用するかご指示願います。 なお、構造的に梁成が異なる場合は、天井伏図において各梁型の寸法をご指示願います。	梁下CH2,720とします。 なおY2、Y3梁成についてはすべて同じ高さです。 （既存構造図より梁成H=800）（梁下CH=2,720は既存FLからの実測値）

工事名称 北見工業大学総合研究棟（応用化学系）改修工事

番号	図面番号	質 疑 事 項	応 答
7	A-03 数量表 No. 24 No. 43	9号館及びC階段室AW窓額縁について、A-47窓改修詳細図 新設改修後の図には、「木額縁 EP-G 新設」とありますが、数量表9号館NO. 24 5. 内装改修<その他>下5, 6行目「AW膳板 既集成材」と記載されており、C階段室にも同様の項目があります。既集成材にEP-G仕上げは一般的でないと思いますが、設計図とおりでよろしいでしょうか。ご指示願います。	9号館及びC階段のAW窓額縁について「タモ集成材」を「スプルー集成材」に変更します。 [参考数量書] No. 24 AW膳板、AW額縁をタモ集成材からスプルー集成材に変更 No. 43 AW膳板、AW額縁をタモ集成材からスプルー集成材に変更
8	A-03 A-31 A-37 A-44	9号館4階前室の天井高さについて、仕上げ表-2及び4階天井伏図ではCH2500と下がり天井CH2210が図示されておりますが、展開図ではCH2500で平となっており、その高さに合わせてパーティションPT-2Nが設置されております。どちらかご指示願います。	展開図-8(改修後) A-31 前室のCH=2500を正とします。 9号館4階前室の天井高さCH=2210部分はすべてCH=2500として訂正します (A-03、A-11、A-31、A-37)
9	S-01 数量表	部分詳細図 既存壁の撤去要領図に「(注)油圧クラッシャーを使用すること」と図示されておりますが、数量表の躯体改修/「コンクリートブレーカ」と異なっております。また、「手はつり」の記載もありますが、解体機会や解体方法については、協議の上必要に応じて解体方法を決めると考えてよろしいでしょうか。ご指示願います。	よろしいです。
10	A-09 A-10 A-11	図面番号A-09ではE打継シール既残とありますが、A-10ではシリング撤去、A-11ではシリング新設とあります。打継部は既設シール撤去・新設と考えてよろしいでしょうか。ご指示願います。	よろしいです。

工事名称 北見工業大学総合研究棟（応用化学系）改修工事

番号	図面番号	質 疑 事 項	応 答
11	S-01	図面番号S-01で、後施工アンカーR-12N相当 D13 L=100mmとありますがアンカーの記入がありません。縦筋と同じく@200としてよろしいでしょうか。ご指示願います。	よろしいです。
12	A-08 A-23	図面番号A-08改修後機械室壁はR4となっていますが、A-23ではR10となっています。A-23を正として吹付30mmとしてよろしいでしょうか。ご指示願います。	よろしいです。
13	A-04～07	1～4階平面図（改修前・改修後）の（特記事項）欄に「・特記なき造作家具は撤去する」とありますが、各平面図には「撤去」と記述がありません。工事で「撤去する」「既存のまま」とする造作家具を平面図にて具体的にご指示願います。	3階平面図（改修前）A-06 天然有機化学第1研究室の㊸人造大理石（天秤台）1800×650×400は既存のまま、㊹の吊戸棚6000×370×900は一時撤去・再設置（扉正面、側面、底面 EP-G）とします。 上記以外の造作家具についてはすべて撤去とします。
14	A-43 A-44	質疑事項以外で、右記のとおり変更修正しますので必ずご参照ください。	【修正事項】 ＜図面番号 A-43＞ 建具表(改修後)-2 SD-1について、ドアチェック（両扉に取付）を追記します。 （常時閉鎖式防火設備へ改修、ドアチェック以外は防火設備の構造方法を定める告示仕様を満たしている。） ＜図面番号 A-44＞ 建具表(改修後)-3 SD-1Nについて、ドアチェック（両扉に取付）を追記します。 （常時閉鎖式防火設備とする。）

質 疑 応 答 書

令和7年 7月 29日

北海道国立大学機構北見工業大学管理課施設管理室

確 認 印			
室 長	室長補佐	係 長	係
			

工事名称 北見工業大学総合研究棟（応用化学系）改修工事

[質疑応答] ・ 参考数量書に対する質疑事項は下記のとおり。

番号	数量書番号	質 疑 事 項	応 答
1	No. 11 No. 32	参考数量書「外壁改修 3-1撤去」の「外壁既存塗膜等の除去」に関して、摘要に「既存仕上全面 水洗い工法高圧水洗機 加圧水10MPa」と記載がございます。図面を拝見し上記工法では10MPaと加圧力が足りず、剥離が難しいかと存じますが上記工法で見積を行い問題ないでしょうか。	改修後の外壁仕上は複層塗材REトップコート2回塗とするため、既存塗膜の除去はしません。 数量書No. 11 外壁「既存塗膜等の除去」および、No. 32 床・外壁の「既存塗膜等の除去」については「高圧水洗浄」として積算してください。 既存塗膜劣化部分の除去は数量書に記載のとおり、サンダー工法にて見込んだ数量を積算してください。 (参考数量書No. 11 9号館 外壁サンダー工法 108㎡) (参考数量書No. 32 C階段 外壁サンダー工法 27.0㎡)
2	No. 11 No. 12 No. 32	参考数量書「外壁改修 3-2改修」の「複層塗材REトップコート2回塗」に関して、本来既存塗膜の除去が必要のない工法かと存じますが、「外壁 既存塗膜等の除去」として全面除去が見込まれています。既存塗膜の除去を見込んで見積を行い問題ないでしょうか。	外壁の既存塗膜の除去はしません。 数量書No. 11外壁「既存塗膜等の除去」および、No. 32 床・外壁の「既存塗膜の除去」については「高圧水洗浄」として積算してください。

以下継続 { あり・なし }
[質疑応答継続用紙 1 / 2]

工事名称 北見工業大学総合研究棟（応用化学系）改修工事

番号	数量書番号	質 疑 事 項	応 答
3	No. 39 No. 44	数量表C階段室の下記項目について、図面から確認できませんでした。この施工範囲を図面にてご指示願います。 ・数量表No. 39 5. 内装改修 <壁> 下から1行目：モルタル塗り 吹付下／23.1㎡ ・数量表No. 44 6. 塗装改修 <壁> 上から2行目：内装薄塗材E モルタル面 下地調整共／23.1㎡	C階段（改修後）2～4階EPS内の壁補修面積になります。 （既存天井撤去後、天井裏になっていた部分の壁補修を見込む） （図面番号 A-17、A-19、A-21 X11-X12、Y3-Y4間のEPS）
4	NO. 12 NO. 32	質疑事項に伴い右記のとおり変更修正しますので必ずご参照ください。	【修正事項】 <参考数量書No. 12> 9号館 外壁改修（参考数量書No. 12 上から5行目・6行目） 複層塗材RE 8.4㎡を116㎡に訂正 複層塗材RE トップコート2回塗 1,054㎡を946㎡に訂正 <参考数量書No. 32> C階段 外壁改修（参考数量書No. 32 下から5行目・6行目） 複層塗材RE 5.0㎡を32.0㎡に訂正 複層塗材RE トップコート2回塗 199㎡を243㎡に訂正